

アナリストにこだわり続けて —現場主義でファクトを追求—

株式会社伊藤リサーチ・アンド・アドバイザー
代表取締役 兼 アナリスト

伊藤 敏 憲 CMA



ニュースをチェックし経済指標や市況データをデータシートに入力する。情報の主な入手手段が紙媒体からWEBに変わった以外は、30数年変わらない私の日課だ。そして、仕事に関係があつたり興味を惹かれたりしたニュースは、その内容を深掘りし、市況に想定外の動きが見られた時には、その理由を探ることも習慣になっている。

2019年は、中東における地政学リスクが何度も顕在化したにもかかわらず、原油市況がほとんど反応しなかった。

5月5日、米国が、諜報機関からイランの米軍攻撃計画に関する報告を受けて中東地域に空母とB52爆撃機4機を配備したと発表し、5月8日にはイランの核計画に対する制裁を復活させた。これに対してイランは、世界の石油消費量の約20%が輸送されているホルムズ海峡を閉鎖すると警告した。5月12日に、オマーン湾に面したフジャイラ沿岸でサウジアラビア、ノルウェー、アラブ首長国連邦の船籍の船舶計4隻が爆発物による攻撃を受け、6月13日には、ホルムズ海峡付近で日本とノルウェーの海運会社が運航するタンカー2隻が攻撃を受けて炎上した。9月14日、サウジアラムコの石油施設が爆撃され、サウジアラビアの原油生産量の約6割に相当する日量570万バレルの原油生産が一時停止した。10月11日には、サウジアラビア沖合を航行中のイラン船籍